第５２号

会報　文化財保存新潟県協議会　　２０１３年６月１５日発行

文化財保存新潟県協議会・第１５回大会

『文化財と観光を考える
～弥生のクニ“釜蓋遺跡”と北陸新幹線開通～』

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会のこれまでの活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史を一緒に学ぼうという機会です。

新潟県の西部を通る北陸新幹線の開業が来年度（予定）に迫っています。一昨年、本会主催の遺跡見学会で訪ねた石川県では、加賀藩前田家百万石の居城として知られる金沢城の第二期整備事業に取り組んでおり、発掘調査と並行して本物志向で史実性の高い復元整備を進めています。これは北陸新幹線の開通にあわせて「金沢城公園」を特別名勝「兼六園」と一体となった県都金沢のシンボル公園として売り出そうという意気込みの現れです。

一方本県では、同じく北陸新幹線にともなう駅周辺の土地区画整理事業地内で発見された上越市釜蓋遺跡が試掘調査の段階でその重要性が明らかになり、発見からわずか３年で「斐太遺跡群」として吹上遺跡とともに国史跡に指定されました。弥生時代、全国にみられたクニの中心的なムラだと考えられるこの遺跡は新幹線駅から至近にあり、観光資源としても大いに期待されています。そこで今回の大会では、北陸新幹線の開通を契機に遺跡が観光にどのように期待されるのか、『遺跡と観光』（同成社）を著し、観光を念頭に置いた遺跡マネジメントの必要性を説く澤村明さんからご講演をいただくとともに、上越市釜蓋遺跡の事例を調査成果や整備計画にもとづいて、地元上越市で長く文化財行政に携わってきた小島幸雄さんからご紹介いただきます。大会は事前申し込み不要です。みなさんふるってご参加下さい。

と　き：２０１３年７月２０日（土）

ところ：新潟市歴史博物館（みなとぴあ）・２階セミナー室

日　程：総　会　１２：３０～１３：００

大　会　１３：００　一般受付開始

１３：３０開会～１６：３０（終了予定）

報告「上越市釜蓋遺跡の未来に向けて～遺跡の保存から活用へ～」

小　島　幸　雄　さん（新潟県文化財保護指導委員）

講演「遺跡の観光経済学」

澤　村　　明　さん（新潟大学経済学部准教授）

懇親会　１７：００～（要予約。会費４０００円程度。）

※資料代５００円をいただきます。詳しくは、同封のチラシをご覧下さい。

ホームページをリニューアルしました：http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/

北陸の後期古墳から、日本全体の歴史が見えてくる!?

越後の後期古墳を考える第14回弥生・古墳講座

小林　隆幸

３月９日（土）、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）を会場に、第14回「弥生・古墳講座」を開催しました。会員をはじめ約40名が参加しました。

今回の講座は「越佐・北陸の後期古墳」をテーマに、小黒智久さんを講師に開催されました。講師の小黒さんは富山市埋蔵文化財センターの主査学芸員として活躍する若手の研究者です。新潟大学人文学部の修士課程を修了し、在学中は甘粕健先生のもとで考古学を学ばれました。磐舟柵に関連する施設の跡とも考えられていた村上市の石廓堡を新潟大学が発掘調査し、６世紀前半にさかのぼる北部九州に起源をもつ初期の横穴式石室であることを明らかにした時には学生のリーダーでした。越後・佐渡を含む北陸一帯は、小黒さんにとっての主な研究フィールドです。

話は古墳時代後期の前段として、中期の状況を確認することから始まりました。

若狭・越前・加賀では前期に引き続き中期にも前方後円墳が築かれ、能登や越中でも少数ながら前方後円墳が存在しますが､越後では前方後円墳が築かれなくなるという状況が説明されました。この時期、越後では前方後円墳ではなく、魚沼にみられるような群集墳の中に盟主墳として中型円墳が築かれるという特色があるとのことです。

なお、北陸全体でも６世紀中葉までに前方後円墳の築造が停止し、首長墳は若狭では大・中型円墳へ、越では中・小型円墳へ変化するとのことです。しかし若狭では円墳の首長墳は単独で築造されるのに対し、越の各地では群集墳内に存在することで首長墳としての明確さを失うようです。

古墳時代後期には上越市清里区の菅原31号墳にみられるように、中期に前方後円墳がつくられなかった越後でも前方後円墳が復活します。菅原31号墳はクビレ部側に開口する横穴式石室を備えているようです。クビレ部に向けて開口するという特徴が、若狭の北部九州系の横穴式石室を持つ古墳に共通することから、小黒さんは未調査であるものの菅原31号墳の石室を北部九州系の可能性が高いと考えているようです。そして築造時期を６世紀前葉と考えています。この時期に北部九州の情報が日本海を通じて北陸方面へ伝わっていったのだろうと推測しています。

また、小黒さんたちが調査した磐舟浦田山古墳群も越後の特徴的な後期古墳として紹介されました。若狭経由で伝わったとされる北部九州系の横穴式石室を持ち、日本海を見下ろす丘陵状に立地するこれらの古墳は、日本海を行き来する海人集団にかかわる墓地と考えられています。北部九州系の技術を持つ北陸の工人が石室づくりを伝え、その後は地元の技術で古墳群をつくっていったと小黒さんは指摘します。

佐渡については現在のところ後期古墳しか発見されていません。しかも台ヶ鼻古墳・谷地３号墳・河崎古墳など少数の古墳は６世紀前葉～後葉に築造されますが、古墳築造の盛行は６世紀末葉以降とのことのようです。台ヶ鼻古墳にも北部九州系の石室が備わっていましたが、これは直接九州から伝播されたものであろうと小黒さんは考えています｡後期古墳しか発見されていない佐渡でも、宮内庁所管の伝鹿伏山出土品として、車輪石や銅鏃など前期古墳の副葬品に見られる資料が伝えられており、前期古墳の探索が課題であるとの指摘もありました。

このほか､北陸の中～後期古墳を取り巻く話題ということで､いくつか興味深い話がありました。

一つは､『日本書紀』の雄略天皇期の記事で、膳臣斑鳩が吉備臣小梨・難波吉士赤目子とともに高麗軍から新羅を救援するための将軍として派遣されたという記載が、若狭の西塚古墳の様相と合

致すると中司照世氏が重視しているということです。膳氏は若狭を本拠とする豪族です。様相の合致とは、西塚古墳が膳氏を想起させる膳部山の西麓に立地すること、古墳には朝鮮半島からの品物（帯金具など）が納められ、吉備系の埴輪が存在することなどです。つまり膳臣・吉備臣のもと若狭が朝鮮へ出兵したことを古墳が反映しているというのです。

二つ目は継体大王擁立と北陸・九州とのかかわりについての話題です。継体は６世紀前葉に活躍した天皇です。母親が越前出身とされ、継体天皇と北陸とは深い関わりがあります。北部九州系の石室など北陸に北部九州の要素が入ってくる背景には、筑紫君による継体擁立があったのではないかとする研究者の説が紹介されました。その後仲たがいして筑紫君磐井が反乱し誅殺されます。それを反映して石室が北部九州系から畿内系に代わったとも考えられるとのことです。

最後は国造についての話題です。まず若狭の例が紹介されました。若狭では丸山塚古墳（６世紀中葉）の被葬者が若狭国造と考えられています。大型の円墳で大和系横穴式石室に豊富な副葬品を備えています。北部九州系の要素が強かった時期に比べ国造制へと移行した段階では畿内との結び付きが強くなったことを古墳が表しているとのことです。

ほかに越中の朝日長山古墳が伊弥頭国造の墓として紹介されました。朝日長山古墳は全長43mの前方後円墳です。その被葬者は富山湾を囲む広いエリアを領域としていたようです。

なお、新潟県のエリアには久比岐国造・高志深江国造・佐渡国造がいたとされています。このうち高志深江と佐渡国造の墓は確認できていませんが、久比岐国造の墓は菅原31号墳が有力視されています。小黒さんは久比岐国造を海人族とする黛弘道氏の説を紹介し、菅原31号墳の埋葬施設が北部九州系の横穴式石室であると考えるご自身にとって魅力的であるとのことでした。浦田山古墳群同様、北部九州系の横穴式石室に葬られた人物と海人族との関連が一層深まります。

最後に小黒さんは古墳の話を通じて文化財保存の重要性と理解を説きました。また途中途中に、古墳研究では現地を訪ねることの大切さを強調し、現地見学を勧めていました。「古墳を訪ねて足の裏から古墳の情報を感じることが大切」との小黒さんの言葉は、全くその通りだと思います。

第1回城の山古墳シンポジウムに参加して

川上　真紀子

３月３日（日）、「眠りから覚めた城の山古墳」と題して第１回の城の山古墳シンポジウムが、胎内市産業文化会館ホールで開かれました。会場は680席あるものの、満席を越えて、会場外で空きを待つ人々もいるほどの盛況ぶりでした。全国から参加者があったとのことでしたが、地元の方も多く、城の山古墳が地域の財産として注目されているのだと実感しました。

胎内市教育委員会の水澤幸一さんの発掘調査の報告からはじまり、橋本博文さんの「関東・中部・北陸からみた城の山古墳」、昼食を挟んで杉井健さん（熊本大学）の「古墳時代前期における靫（矢入れ具）の生産とその意義」、辻秀人さん（東北学院大学）の「東北日本周辺域の古墳成立過程」と報告がつづきました。どれも大きなテーマで、日本列島全体を視野に入れたお話でした。それは、城の山古墳が古墳の希薄な地域にありながら、列島の大きな歴史のうねりの中にあったことを物語っています。

ヒスイの勾玉、盤竜鏡などの出土品も展示され、参加者の関心は増すばかりでした。第２回目のシンポジウムは１２月８日に予定されているそうです。また、胎内から日本の歴史をのぞいてみたいものです。

今年の文化財保存全国協議会大会は山梨県で開催！

第44回山梨大会「史跡整備と世界遺産」のお知らせ

富士山が世界文化遺産に登録される見通しとなっています（2013年6月26日登録予定）。これを機に山梨県で進行している県史跡甲府城跡復元整備事業、南アルプス市等の行政と文化財研究団体・市民団体の山梨の文化財保存活用情報を報告し、全国の文化財保存運動と世界遺産の動向のなかで、文化遺産保存の意義を考えます。大会前日には、富士山北麓の文化遺産を訪ねる見学会もあります。見学会・大会は文全協会員でない方も参加可能です。全国大会にもふるってご参加下さい。

主　催　　文化財保存全国協議会・同山梨大会実行委員会・山梨県考古学協会

日　程　　2013（平成25）年6月28日（金）、29日（土）、30日（日）

６月２８日（金）　全国委員会・総会

６月２９日（土）　見学会・懇親会（要予約）

富士北麓文化遺産見学会（9時～16時30分頃、8:40甲府駅南口集合）定員40人

参加費(バス・資料代)　3500円、昼食は吉田のうどん等自由に

懇親会 18時～20時　山梨学院大学食堂プルシャンブルー　会費予価4000円

６月３０日（日）　大　会（9時30分～16時30分　資料代500円）

会　場　山梨学院大学7号館303ＡＶ教室（山梨県甲府市酒折2-4-5、中央線酒折駅5分）

内　容

基調講演　富士山の文化遺産と富士山信仰　　清雲俊元（山梨県文化財保護審議会長）

報　告：ふるさと文化伝承館と南アルプス市の文化財保存普及活動

県史跡甲府城跡の保存整備

富士山の世界遺産登録推進の経過と課題

吉野ヶ里遺跡群のメガソーラー問題と世界遺産推進

世界遺産・平城宮の公園舗装

群馬県長野原町八ツ場ダムの文化財保存問題

詳細は『文全協ニュースNo.196』、文全協ホームページをご参照ください。

見学会・懇親会の申し込み：〒406-0032笛吹市石和町四日市場1566　山梨文化財研究所

文全協山梨大会実行委員会（望月秀和）

℡055-263-6441　Fax055-261-0462　Email：y-sankoukyou_1979@hotmail.co.jp

葉書・Ｅメールで予約事項（参加日程・氏名・住所・℡・Ｅメール）を明記し、6月21日までに申し込みください。見学会・懇親会は先着順で受付け、費用は当日徴収します。予約変更は必ず事前連絡ください。

編集後記　文新協のホームページをリニューアルしました。また、文新協の母体である文化財保存全国協議会のホームページ（http://www001.upp.so-net.ne.jp/bunzenkyou/）も、あわせて文新協で作成・更新しています。こちらも全国の遺跡の動向を紹介していきます。ぜひご覧ください。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には、可能な限りお送りしています（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は、事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局（入会についてのお問い合わせも）

Ｅ－ｍａｉｌ：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ：http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/（ＵＲＬが変わりました）